

■訪日外国人が将来的に3000万人とも言われる中、我が国に訪れた方が、入国時から滞在・宿泊、買い物、観光、出国まで、ストレスなく快適に過ごすことが可能となるICT基盤を整備することが重要。

■1枚あれば電車、バス、タクシー、買い物等が可能である交通系ICカード及び、誰もが持ち歩くスマートフォンをトリガーとし、クラウド上に登録する自国語情報などの属性と紐づけ、ホテルや百貨店などで、個人に最適な情報・サービスを提供。

## おもてなしクラウド共通基盤

### インフラに係る機能要件

- 本インフラで管理するユーザーの属性情報と、サービス上で提供されるユーザーの属性情報を一括で検索・取得できること
- ユーザーを一意に識別できること
- 必要に応じて、サービサーが提供するユーザー属性情報を検索・取得できる手法を検討。  
(※ どの場合に、どの程度の属性情報を検索・取得できるようにすべきかサービスSWG等にて要検討)
- セキュリティ・プライバシーについて  
(ユーザーに無許可で情報は取得できない、ユーザー属性情報はユーザーが細かく制御、アクセス権限)
- 拡張可能な認証方式とする。  
・交通系ICカード及びユーザーID・パスワードの組み合わせ等。将来的に生体認証や二段階認証等多様化も検討。

### 地域実証事業に対する連携機能

- おもてなしインフラに対してユーザーに直接アクセスする標準的アプリとして「おもてなしポータルアプリ」を提供する。
- サービスランチャー（日時や所在地などに対応し関連の深い順序でサービス一覧を表示）等を検討する。
- 開発者サイト（サービサーの登録、削除、更新 等）
- デバイス側に必要となる機能、サービス側に必要となる機能

## アーキテクチャ(詳細は別添図等)

### 【全体構成】

- おもてなしユーザー属性情報提供（ユーザー属性情報の検索・取得の方法）
- おもてなしアイデンティティ管理（ユーザー認証、アクセス制御、アカウント管理等）
- おもてなしインフラ管理（インフラ監視等）
- おもてなしポータルアプリ（サービスポータル等）

等

## 技術要件

- 交通系ICカード（フェリカ）を活用する。
- 利用する技術としては、「IDm」に加え、用途に応じて「フェリカポケット」等も活用できるようにする。
- 「共通ID」を活用する。
- 交通系ICカード以外にも非接触ICカード等対応も検討。
- プラットフォーム構築やアプリケーション実装については拡張性を持つこと。
- オープンソースソフトウェアを極力採用すること
- 既存の複数の決済系システムとの連携を目指すこと
- ユーザーからのアクセス、リクエストへスムーズなレスポンスを可能とすること。
- セキュリティについては、扱う情報のレベルに応じた対策が必要となること  
（本サービス関係者に対してセキュリティガイドラインを策定）
- 信頼性・可用性・保守性等を満たすこと

等

# おもてなしインフラアーキテクチャ(概要図)

